

地域に寄り添い、住民を支える保健師を目指して

《行政保健師を志望したきっかけ》

私が県の保健師を志望したのは、感染症対策や児童虐待支援など、地域の最前線で住民を支える仕事に魅力を感じたからです。もともとは養護教諭を志望していましたが、先生との面談や授業、実習を通して、地域に根ざした支援を行う行政保健師の役割に関心を持つようになりました。

さらに、インターンシップやスタディーツアーで行政の立場から地域の健康課題に向き合う現場を見学し、その責任の重さとやりがいを実感しました。特に県の保健師は、広い視点から住民への支援を展開できる点に魅力を感じ、ここで働きたいという思いがより明確になりました。



《就職試験に向けた取り組み》

就職試験に向けては、教養試験と専門試験の対策を中心に、実習が落ち着く1～2月頃から問題集を使って学習を進めました。小論文は市販の問題集を繰り返し解きながら構成力を養い、面接対策では動画を参考にしながら練習を重ねました。また、先生や友人にも協力してもらい、自分の考えを自分の言葉で伝える練習を行いました。練習を重ねることで考えが整理され、自信につながったと感じています。

《実習と試験勉強の両立》

最も苦労したのは、実習と試験勉強の両立です。毎日できる範囲で小さな目標を立て、隙間時間を活用しながら少しずつ学習を積み重ねました。完璧を求めすぎず、自分のペースで進めることを大切にすることで、無理なく継続することができました。思うようにいかないこともありましたが、その経験から得られた気づきや学びは大きく、今では貴重な経験となっています。

《後輩へのメッセージ》

これから挑戦する後輩の皆さんも、実習と試験準備で忙しい時期を迎えると思います。困ったときは一人で抱え込まず、先生や友人など周囲の力を頼ってください。自分のペースで努力を積み重ねていけば、きっと道は開けると思います。応援しています。